

令和 5 年 6 月 29 日現在

機関番号：25502

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19K02216

研究課題名(和文) 障害児支援者の初期キャリアとコンピテンシーに着目した専門職養成プログラムの開発

研究課題名(英文) Development of a Specialist Training Program Focusing on the Competency of Early-career Support Workers for Children with Disabilities

研究代表者

藤田 久美(Fujita, Kumi)

山口県立大学・社会福祉学部・教授

研究者番号：40364129

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、職に就いてから3年目までの初期キャリアにある障害児支援者を対象とした研修プログラムの開発を行うことを目的とした。児童発達支援センターに勤務する初期キャリア支援者を対象にインタビュー調査をもとに専門性の獲得過程の分析及びグループワークの実践研究を行った。これらの研究成果をもとに、初期キャリアにある支援者を対象とした障害児支援者コンピテンシーの獲得を目指した専門職養成プログラムを開発した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまで未開発であった児童発達支援に従事する初期キャリアにある支援者の専門性の指標となるコンピテンシーと連動させた研修プログラムの開発は、学術的意義があると考え、また、初期キャリア支援者が障害児と家族とかかわる実践をもとにした省察や自身の成長を確認できることのできる教育プログラムを提供できたことは社会的意義があると考え、今後も障害児福祉に貢献する支援者の専門性向上に資する研究を継続していきたい。

研究成果の概要(英文)：The development of the competency of support workers who assist children with disabilities has been previously studied. Results of prior research have revealed that support workers who have been employed for less than 3 years in child development support centers and child development support programs (hereinafter, "child development support") require systematic and continuous training and assistance. Therefore, the present study aimed to develop a training program for workers in the early stages (up to the third year) of their careers. Early-career support workers were qualitatively assessed via interview surveys and regular group practical studies. Based on the results, this study proposed training content and methods for improving the competency of these workers.

研究分野：障害児福祉

キーワード：障害児支援者コンピテンシー 初期キャリア 児童発達支援センター 研修プログラムの開発 幼児期の障害児支援

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

障害の早期発見・早期支援は国の責務でもあり、その受け皿となる児童発達支援センター・児童発達支援事業所（以下：児童発達支援）の社会的役割は大きい。児童発達支援では、障害のある子ども本人の最善の利益を保障することを目指した上で、「発達支援」「家族支援」「地域支援」に関するサービスを提供することが求められる。近年、児童発達支援の利用者は増加傾向にあり、障害の確定診断前から利用できるため、発達の過程で障害が発見される自閉症スペクトラム等の発達障害群の子どもの利用は半数以上を占めている報告がある。児童発達支援に従事する支援者は、多様な障害や発達の状態について一人ひとり正しく理解した上で支援を提供するためには、障害児支援に特化した知識や技術を習得しておく必要がある。

児童発達支援に従事する職員の保有資格は、保育士、教員免許、社会福祉士、作業療法士、言語聴覚士、看護師など、多様であり、それぞれの専門性を生かしつつ、児童発達支援のサービスに特化した専門性を獲得するためにはある程度の経験を積むことが必要となる。しかし、子どもの最善の利益を保障するためのサービスの質の担保は必要不可欠となるため、職員が専門性を獲得するための教育プログラムや支援方法を検討する必要がある。特に、新卒者は専門性像がつかみにくいため、指標となる専門性を明確に提示することが求められる。この指標として、コンピテンシーは有効であると捉えられ、医療・看護・教育・福祉・教育等の専門職の指標や教育効果の測定、キャリアパスに導入できるツールなどが開発されている（池田 2005、宗村 2007、宗村 2013、武村ら 2014、倉岡ら 2016）。保育分野においても開発され、養成教育や支援者養成に活用できる可能性も示されている（高山 2009）。筆者は、未開発であった障害児支援分野において、児童発達支援に従事する職員のコンピテンシーを明らかにするための研究をすすめてきた。児童発達支援への参与観察及び障害児支援者のグループインタビューを通して障害児支援者のコンピテンシーとなる要素を抽出した上で、コンピテンシーモデルとコンピテンシー領域と概念形成、項目作成を行った（藤田 2019）。コンピテンシー領域は「関心・意欲・態度」「社会人基礎力」「知識」「技術」「実践と省察」とし、全 145 項目を作成した。作成したコンピテンシーアセスメント項目（5 領域 145 項目）の信頼性と妥当性を精査し、幼児期の障害児支援に携わる児童発達支援センターの職員の専門性をイメージできるコンピテンシーモデルを提案した（藤田 2019）。また、児童発達支援に従事する支援者 611 名を対象に、経験年数とコンピテンシー獲得度の関連について分析した結果から、初期キャリア期にある 3 年未満の障害児支援者のコンピテンシー獲得度が低い傾向にあるため、この時期に計画的・継続的な教育や介入が必要であることが明らかになった。そこで、児童発達支援に勤務する支援者が職に就いた 1 年目からおおむね 3 年目までの初期キャリア期にコンピテンシーを確実に獲得することのできる支援体制や研修が必要ではないかという発想に至った。そこで、開発した障害児支援者コンピテンシーを活用し、初期キャリアにある支援者を対象とした専門職養成にかかわる研究に着手する準備を行った。

2. 研究の目的

本研究は、児童発達支援の職に就いてから 3 年目までの初期キャリアにある障害児支援者を対象とした研修プログラムの開発を行うことを目的とした。

3. 研究の方法

初期キャリアにある障害児支援者がどのように専門性を獲得するかということ明らかにするために、2 名の支援者（保育士 1 名、社会福祉士 1 名）を対象としたインタビュー調査を実施・分析した。また、児童発達支援に勤務する初期キャリアにある支援者を対象とした「実践を語り合う」ことを中心としたグループワークを行った。これらの研究成果をもとに、初期キャリアにある障害児支援者に特化した研修のポイントを整理し、コンピテンシー領域に連動した研修プログラムを開発した。

4. 研究成果

1) 初期キャリアにある障害児支援者の専門性獲得過程に関する研究

職に就いて 3 年以内の初期キャリア期にある障害児支援者の専門性の獲得過程を明らかにするためのインタビューを実施・分析し、介入や支援の方法を検討した（藤田、永瀬 2021、藤田 2021）。さらに、児童発達支援に勤務する初期キャリアにある障害児支援者 5 名を対象に、実践を語るグループワークを定期的に行い、その効果を検証した。さらに、コンピテンシーと連動させた研修プログラムを試行的に初期キャリアにある支援者 6 名に協力を得てオンラインで実施した実証的研究の成果をもとに研修内容と方法を再整理した。

<インタビュー調査 障害児支援者 A（経験 3 年、社会福祉士）>

児童発達支援センターに勤務する初期キャリアにある障害児支援者の専門性獲得過程を明ら

かにするために、児童発達支援センターに3年間勤務している社会福祉士の資格を有する障害児支援者Aにインタビューを行い、インタビューから得られた語りをTEM(複線径路・等至性モデル)によって分析した。その結果、約3年間の「子どもとの関わり」「家族との関わり」「子どもが並行通園している保育機関との関わり」という具体的な業務の経験を積み重ね、他の職員の業務の様子から学ぶ中で、自身の専門性を深めていることが明らかになった。しかしながら、「子どもとの関わり」に関する専門性の深まりを実感するようになると、「家族との関わり」に関する専門性についての迷いが生じるというように、障害児支援者としての専門性にある側面が深まると、異なる側面が意識されるという専門性が確立されるプロセスが際限のないものであるということも同時に明らかになった。研究で明らかにしたTEMにおいて、1年目の必須通過点(OPP)として、「障害児支援者としての自身の専門性に対する省察」、2年目の必須通過点(OPP)として、「障害児支援者としての子どもとの関わりの蓄積・省察しながら、先輩支援者の言動をみて学ぶ」、3年目の必須通過点(OPP)として、「障害児支援者として家族の関わりを蓄積・省察しながら、先輩支援者が家族と関わる様子を見て学ぶ」が見出された。すなわち、専門性を意識した省察を基盤とした上で、日々の業務を通して先輩支援者の言動を見て学ぶという行為を重ねながら自身の専門性を模索していました。初期キャリア終盤では、分岐点(BEP)として、「障害児支援者として子どもを取り巻く環境(家族や保育機関)との関わりを蓄積・省察しながら、自身の専門性についての問いを深めている」という段階に至っているということが示唆された。そして、EFPとしての「ソーシャルワークを基盤とした専門性の確立」という自身の保有する資格と専門性を中核とした障害児支援者の専門性の確立を行なっていくことが考えられた。

<インタビュー調査 障害児支援者B(経験3年、保育士)>

児童発達支援に3年間の勤務経験のある保育士の資格を有する障害児支援者Bを対象にしたインタビュー結果をもとに、開発したコンピテンシー領域「関心・意欲・態度」「社会人基礎力」「知識」「技術」「実践と省察」を関連させた結果、Bは、障害児支援に対する関心と意欲を保持しながら、自身の保有資格である保育士の専門性と大学時代から学んでいる音楽療法をつよみにした障害児支援者として確実に成長しているがうかがえた。一方、その過程には、悩みや葛藤が常にあったが、「実践と省察」を積み重ね、業務を覚え、子どもの理解を深めつつ、家族に寄り添い、子どもを取り巻く環境(地域等)へも障害児支援者として真摯に携わっている姿があった。3年間の経験が語られたデータをもとにBが専門性を獲得するために必要だった要素を整理した結果、「子どもとかわる経験」「家族とかわる経験」「地域の支援機関とかわる経験」「実践をふりかえる経験」「危機(悩みや葛藤等)を乗り越える経験」の5つに整理することができた。初期キャリア支援者を対象とした研修内容として、「知識」や「技術」を単に習得するだけでなく、それに加え、実践をふりかえる機会を提供することが必要であることが考えられた。さらに、実践を通して抱える悩みや葛藤を言語化し、仲間や先輩と共有する時間を提供することが必要であることが明らかになった。

<初期キャリア支援者を対象としたグループワークから>

職に就いて3年以内の初期キャリア期にある障害児支援者に、現在の業務についてからの様々な経験を仲間と共有する「実践を語りあう」グループワークを導入した研修プログラムを試行的に実施した。成果として、こうした時間の設定が、初期キャリアある支援者が実践を通して抱える不安・悩み・葛藤あるいは手ごたえや喜びを言語化することで、自身のふりかえりの時間となることが明らかになった。また、仲間と実践をふりかえる機会を通して、児童発達支援に携わる支援者としての専門性を確認できる時間となることに加え、ファシリテーター(筆者)に実践を意味づけてもらったり、悩みや不安を受容してもらったりすることで、様々な実践を蓄積しながら支援者として成長していくことの意味を実感できるのではないかと考えられた。

2) 初期キャリア支援者の研修プログラムの開発

これまでの研究成果をもとに職に就いてからおおむね3年程度の初期キャリアにある支援者を対象とした研修プログラムの開発を行った。初期キャリア支援者対象の研修プログラムを検討する際には、子どもや家族への具体的なかわり合いの過程で浮上する感情・気づき・疑問等を言語化しながら、自らの実践をふりかえる時間をつくることが必須になると考えた。支援者自身の経験したことがエピソードとして語られ、自己の感情と向き合い、それが他者と共有されることで、省察の機会が与えられた。また、ファシリテーターによって自身を肯定されることや実践を意味づけってもらうことで、子どもや家族の理解と支援においての自身の役割を認識し、悩みや葛藤に出会い、それを乗り越えるための実践が専門性を高めていく大切なプロセスであることに気づく機会にもなるのではないかと考えられた。さらに、自身が持つ社会福祉士、保育士等の資格が有する専門性を意識し、業務に携わるために必要な専門性について具体的に考える機会

を与えることも必要になると考える。実践と省察をもとに、障害児支援者の専門性について考察する機会が与えることで、自身が保有する資格のつよみを発揮させながら、足りない知識・技術等を習得しようとする主体的な態度が醸成されていくと思われる。こうしたプログラムを定期的に行いながら、障害児支援者コンピテンシーが獲得されていくようなプログラムを定期的・継続的に行っていくことが重要であると考えた。そこで、障害児支援コンピテンシーを4つの領域に分け、プログラムに導入する内容と方法の概要を表1～表4に示した。

表1：コンピテンシー「関心・意欲・態度」の内容と方法

内容	方法
この仕事を選んだ理由	この仕事を選んだ理由について仲間と共有する。先輩支援者がなぜこの仕事に就いたかという話やこれまで続けてきたモチベーションになる話を聴く。
理想の支援者像	自分はどんな支援者になりたいかを考えるワークを行い、理想の支援者像を描くワークを行う。「子どもにとって」「家族にとって」

表2：コンピテンシー「知識」及び「技術」の内容と方法

内容	方法
私の業務と役割	今の自分の業務内容と役割について確認する。
障害児支援者の専門性	自身のこれまでの経験をもとに障害児支援者の専門性とは何か仲間と共に考えるワークを行う。
業務に必要な知識	業務を行う中で得た知識と自分に足りない知識を出し合うワークを行う。
業務に必要な技術	業務を行う中で得た技術と自分に足りない技術を出し合うワークを行う。
他機関との連携	児が併行通園する保育所・幼稚園・認定子ども園の支援者との連携の事例から、児童発達支援センターに従事する支援者の役割を考察する。

表3：コンピテンシー「社会人基礎力」の内容と方法

内容	方法
障害児支援者の社会人基礎力	学生時代と比較して児童発達支援センターに勤務するようになって身についたものと、まだ身につけていないと感じているものをあげ、仲間と共有する。
業務遂行力	自己評価をもとに行動目標を考えてみる。 仲間と共有しながら、どのような行動変容が可能な方法について意見を出し合う。
ストレスマネジメント	どのような時にストレスを感じるか、ストレスマネジメントの方法等を仲間と話し合う。

表4 コンピテンシー「実践と省察」の内容と方法

内容	方法
実践を語りあう	仲間と実践の語り合いを行い、実践をふりかえる機会を提供する。ファシリテーター（外部の専門家又は児童発達支援管理責任者等）は、リラックスした雰囲気づくりに努め、それぞれが実践を語り、仲間の語りに耳を傾けることができるようコーディネートする。業務を通して「悩んでいること」と「やりがいや喜び」について仲間と共有することで、自らの気づきを生み出し、省察の機会につなげる。子どもや家族とのかかわり、地域の支援機関との連携を通して発生する悩み・戸惑い・葛藤に向き合うことの大切さに気づき、主体的に専門性を高めようとする姿勢やキャリア形成を図ろうとする意識を醸成する機会とする。

考案した研修プログラムを、試行的に初期キャリア1年目～3年目までの児童発達支援に勤務する支援者6名に協力を得てオンラインで6回実施し、その成果をもとに、研修内容と方法を再考した。

これらの研究の成果物として、初期キャリア支援者を対象とした研修用テキストを作成した。今後、作成したテキストを活用し、初期キャリア支援者の成長を支えるための方法をさらに検討し、障害児福祉に貢献する支援者の専門性向上に資する研究を継続していきたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 藤田久美、永瀬開	4. 巻 14
2. 論文標題 初期キャリアにある障害児支援者の専門性の獲得過程	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 山口県立大学学術情報第14号	6. 最初と最後の頁 9-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 藤田久美	4. 巻 Vol.21
2. 論文標題 障害児支援に携わる支援者の実践力育成に関する一考察	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 71-74
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 藤田久美
2. 発表標題 障害児支援者の初期キャリアにおけるコンピテンシー形成に関する研究
3. 学会等名 日本保育学会第74回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 藤田久美
2. 発表標題 障害児支援に携わる支援者の専門性の探求 コンピテンシーに着目した検討を通してー
3. 学会等名 日本保育学会第73回大会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------